

ペトリフレックス7の主な性能

形 式	フォーカルブレン式CdS 3点完全連動35ミリ一眼レフカメラ	リーズ斜めボタン	セルフタイマー内蔵(約9秒)
使用フィルム	バトローネ入り35ミリフィルム(20・36枚撮り)	シンクロ	FP X (JISB)
標準レンズ	ペトリF 1.8 55ミリ 4群6枚 コンビネーションコーティング 完全自動絞り レンズ交換可能専用バヨネット	ファインダー	ペンタプリズム式 フレネルレンズ コンデンサー併用 0.9倍 直進ヘリコイドによる焦点調節
シャッター	フォーカルブレンシャッター 一軸不回転 B 1 2 4 8 15 30 60 125 250 500 1000 (倍数系列) フィルム巻上同時セット ホデーレ	露出計	CdSメーター シャッター連動範囲ASA 100のときLV 4-18 水銀電池損耗防止自動スイッチ付
		フィルム巻上	トップレバーによる一作動巻上(余裕角12° 巻上角180° 順算式自動復元フィルム枚数計)
		寸法・重量	149×94×90ミリ(横×高×奥行) 920g



ペトリカメラ株式会社

本社・工場	東京都足立区梅島町1	九州センター	福岡市片土居町13-2
東京センター	東京都千代田区九段2-5	北海道センター	札幌市南7条西10丁目
大阪センター	大阪市南区鰻谷西之町11-4	ペトリカメラ・コーポレーション・オブ・ヨーロッパ	
名古屋センター	名古屋市中区鶴堂町1-5	ペトリカメラ・コーポレーション・オブ・オキナワ	

**INSTRUCTION
BOOK**



ペトリフレックス7は

C d S メーター内蔵の完全連動一眼レフカメラです……

ペトリフレックス7をお買上げいただき、ありがとうございました。あなたの愛機にふさわしい新機構をすべてそなえたペトリフレックス7は、必ずご満足いただける使いやすい、デラックスな一眼レフカメラです。

きょうから、このペトリフレックス7をお使いいただくわけですが、その前に本書をよくお読みになって、愛機の性能を知り、使い方を完全にマスターされた上で、縦横無じんにご活用くださいますようお願い申し上げます。

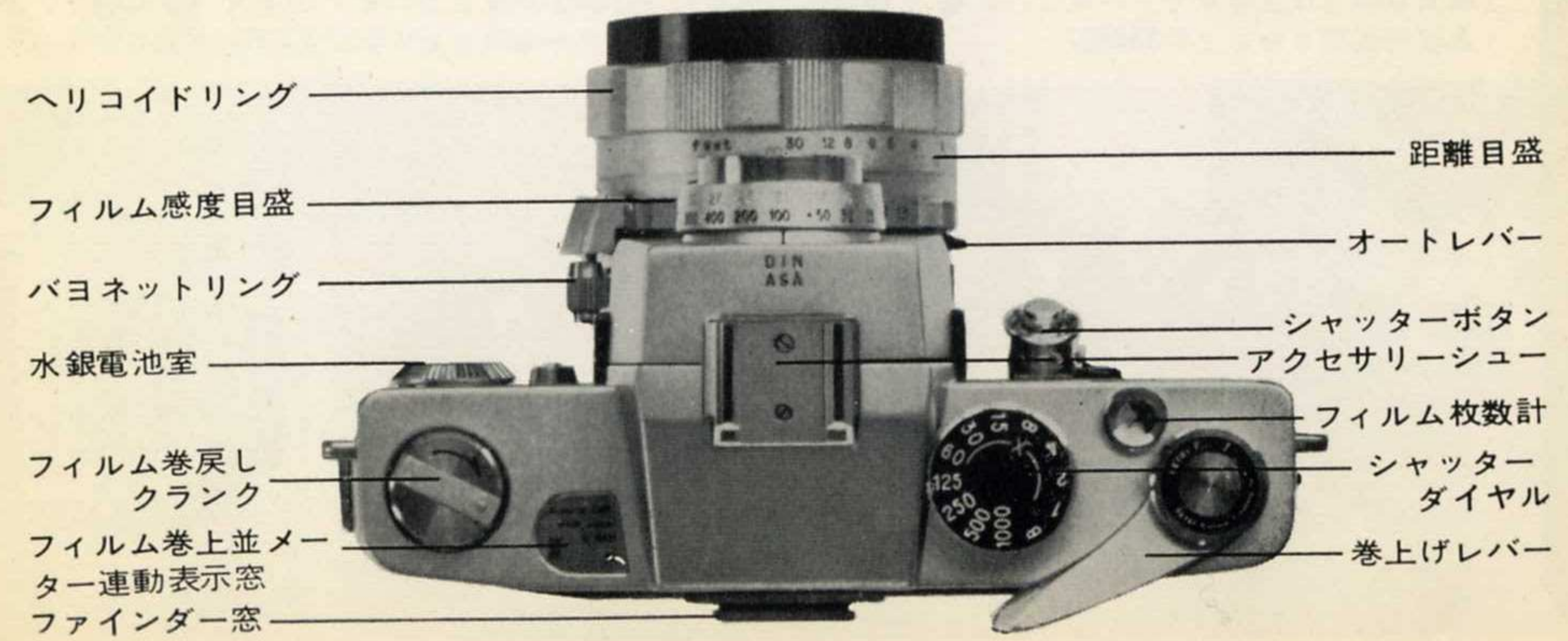
カメラの使い方をご説明するまえに、ぜひ覚えておいていただきたいのが、各部の名称です。すでにカメラをお使いになった方

なら、もうご存知の呼び名が多いことでしょう。また、はじめてカメラをお持ちになる方にも、わかりやすい言葉を用いてあり



ますので、すぐ覚えていただけたらと思います。ペトリカメラの特長のひとつに、ボディ前面斜30度のシャッターボタンがあります。これ

は人間工学のもたらした、カメラおれのない理想的なものです。カメラをお使いになるとその良さに、すぐお気づきになるはずですよ。



カメラをとり出し、レンズキャップをはずしたなら、フィルム巻上レバーを巻き上げてください。ファインダーをのぞいてピン

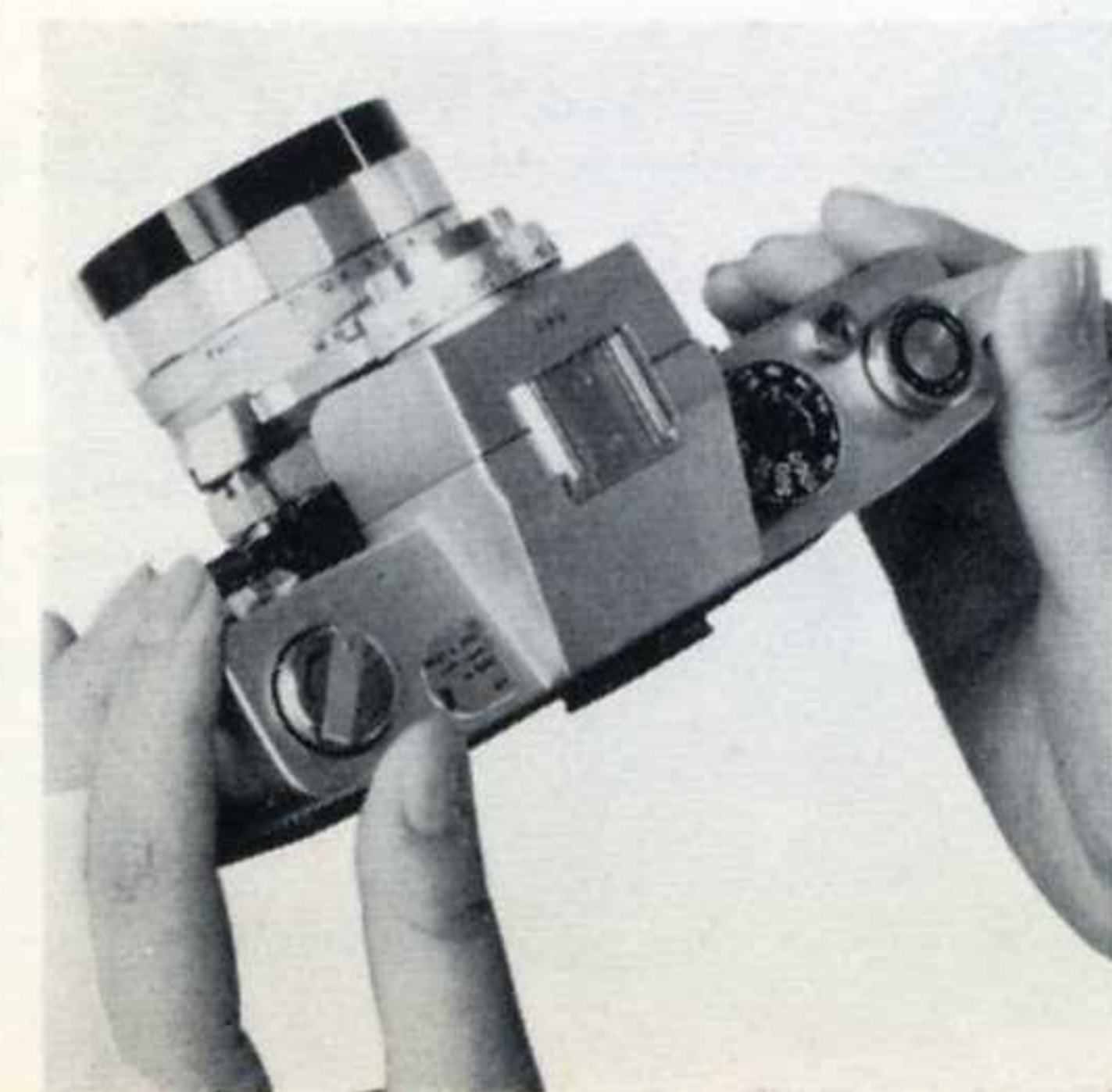
トを合せると、像がくっきり浮上って見えます。ここでシャッターボタンを押します。軽快なシャッターの音を耳にすると、ペト

リフレックス7があなたのものになったという実感がわいてまいります。ペトリフレックス7は、絞を先に決めてもシ

ャッター速度を先に決めても、CdSメーターが連動するので、あなたの撮影意図を完璧に写真化してくれるデラックス一眼レフです

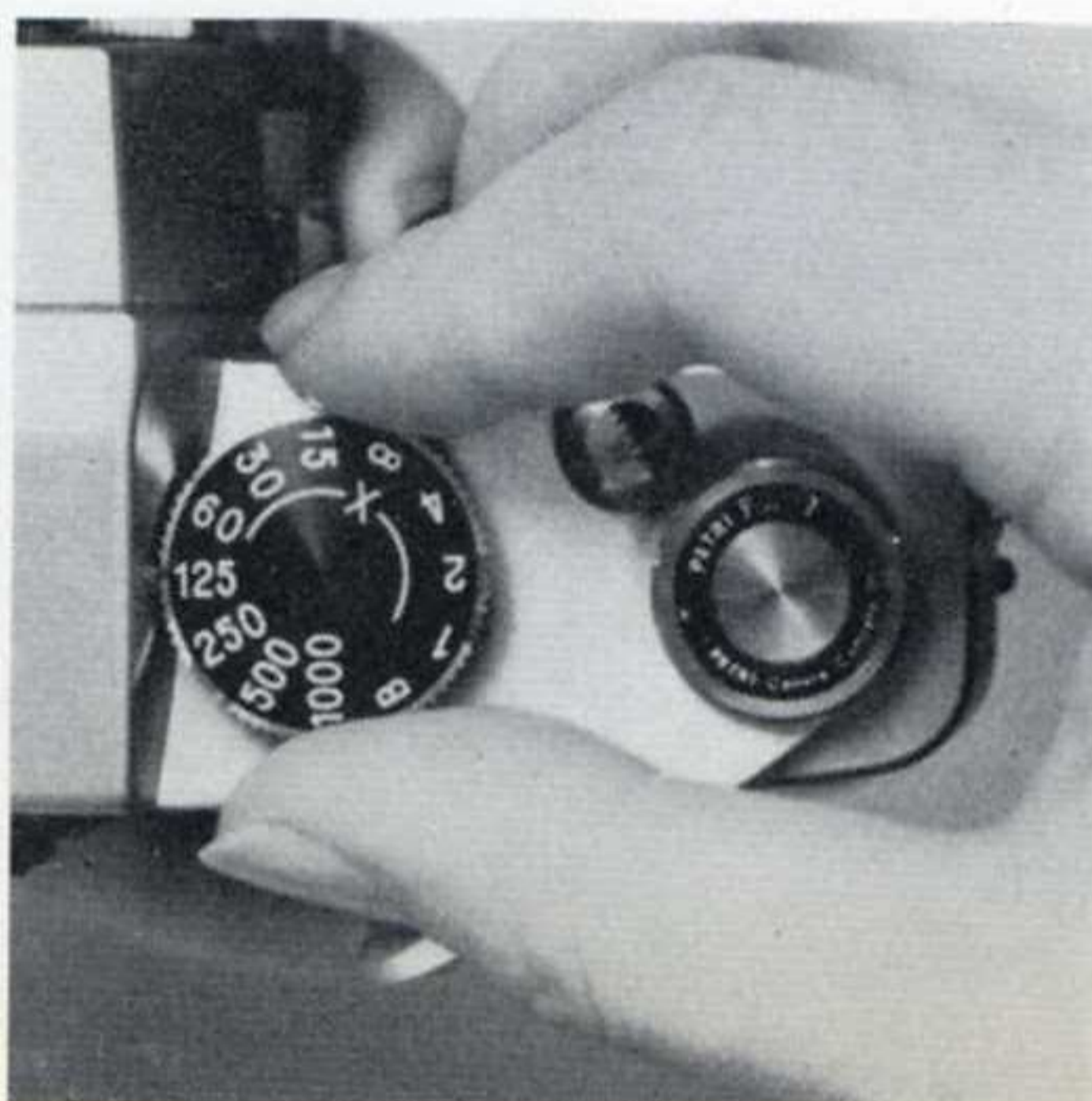
1・フィルムを巻き上げ

巻上レバーは止るまで、いっばいに巻上げてください。(約180度)



2・シャッター速度を決め

快晴の戸外なら $\frac{1}{250}$ 秒というようにそのときに使うシャッター速度をセット



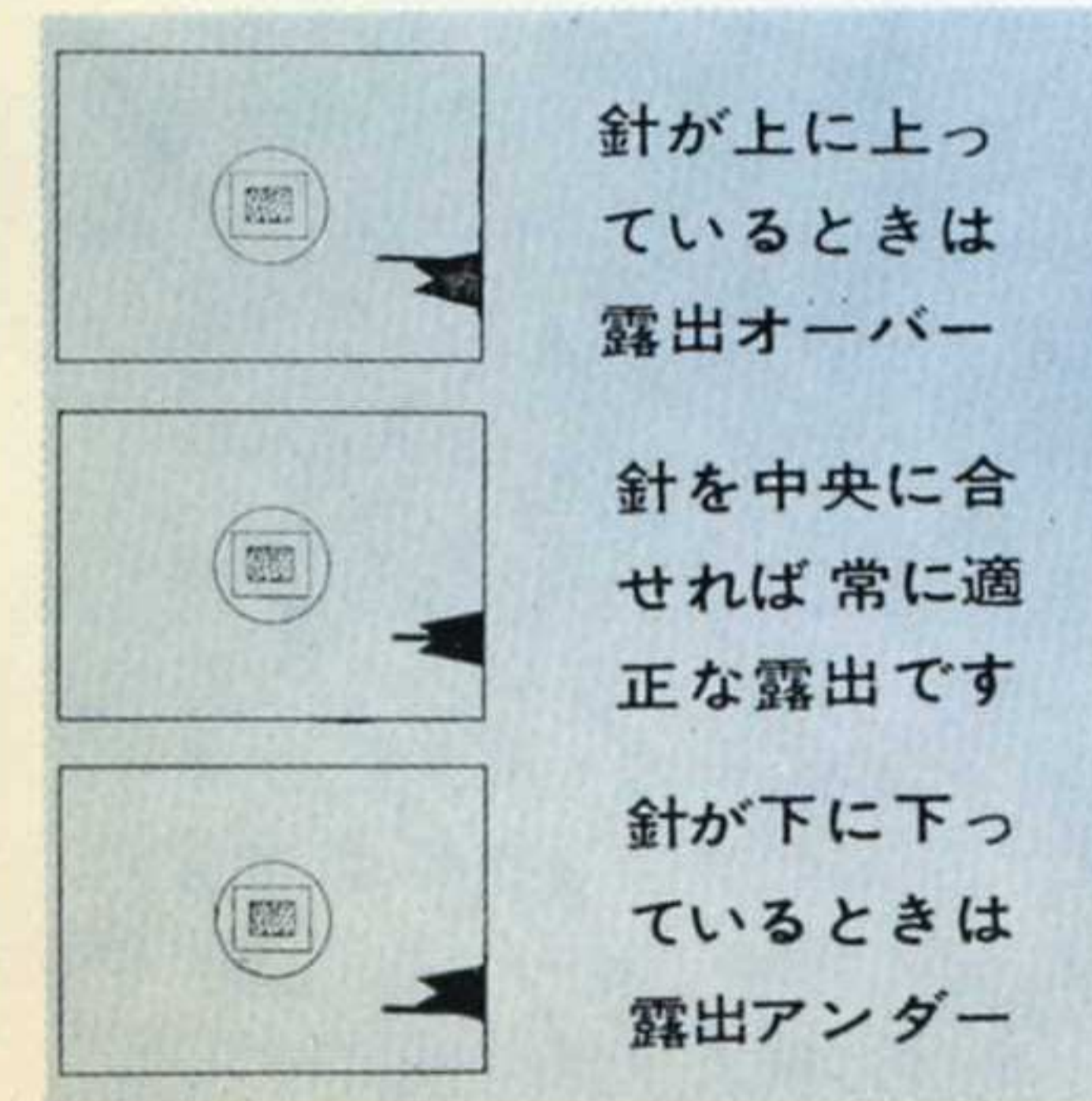
3・ファインダーを見て

ファインダー窓に針が見えます。リングをまわし針をマークに合せる



4・指針を合せると

針を合せると適正な絞りになっていきます。ボディ前面に、その数字が出ます。



5・ピントを合せます

露出はOK、ということになればマイクロピントを合せます。



6・シャッターを切る

シャッターボタンを静かに押します。これでフィルムに露光されるのです。



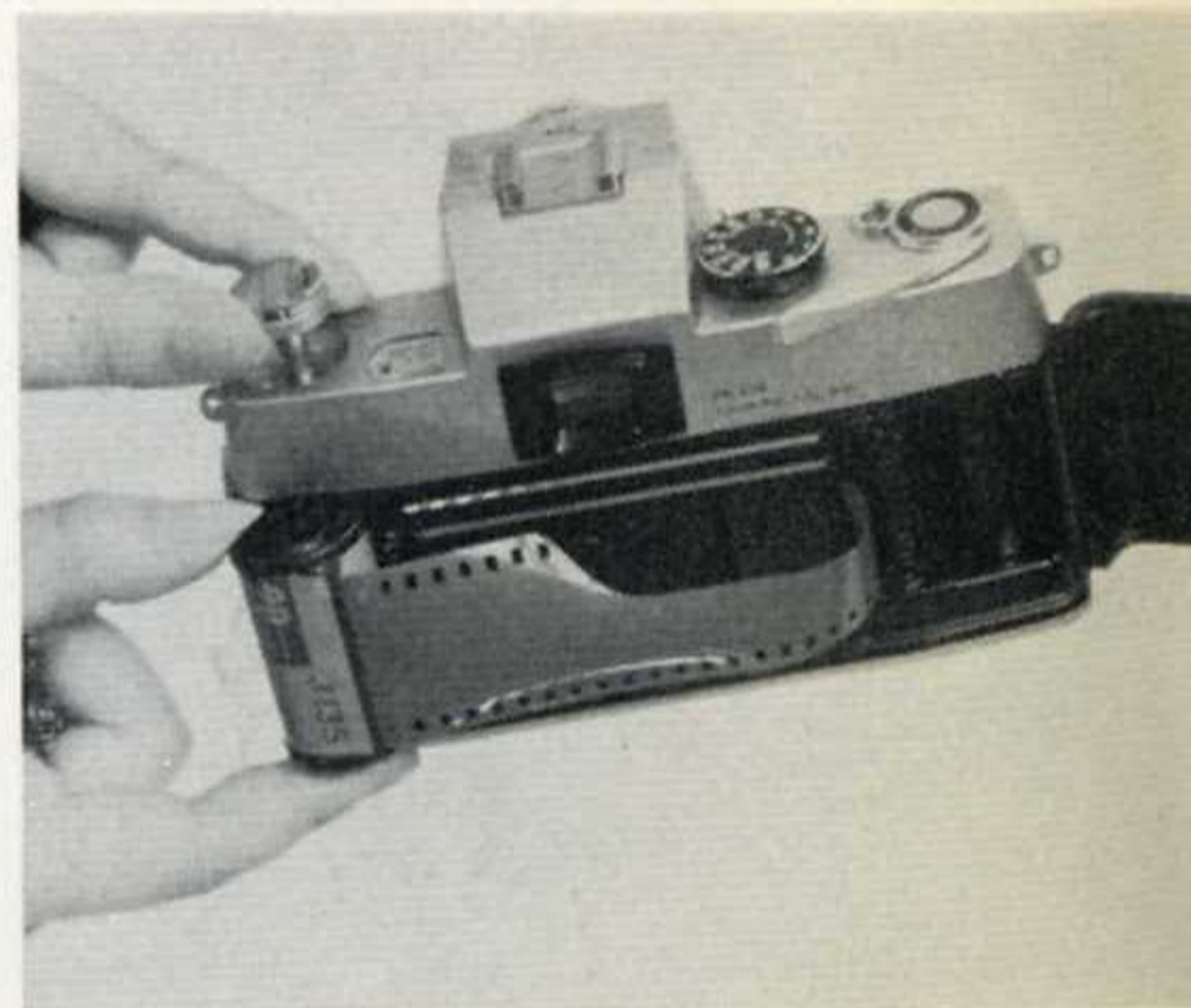
ペトリフレックス7は、フィルムの装填が楽に素早く行えるよう設計されています。説明写真のとおりにつめていただければ、一回でコツがのみ込めるはず。フィルム

をつめるときに注意してほしいのは、フィルムのパーフォレーション（両側の穴）をスプロケットギヤ（フィルムを送る歯車）と正しくかみ合わせるだけなのです。

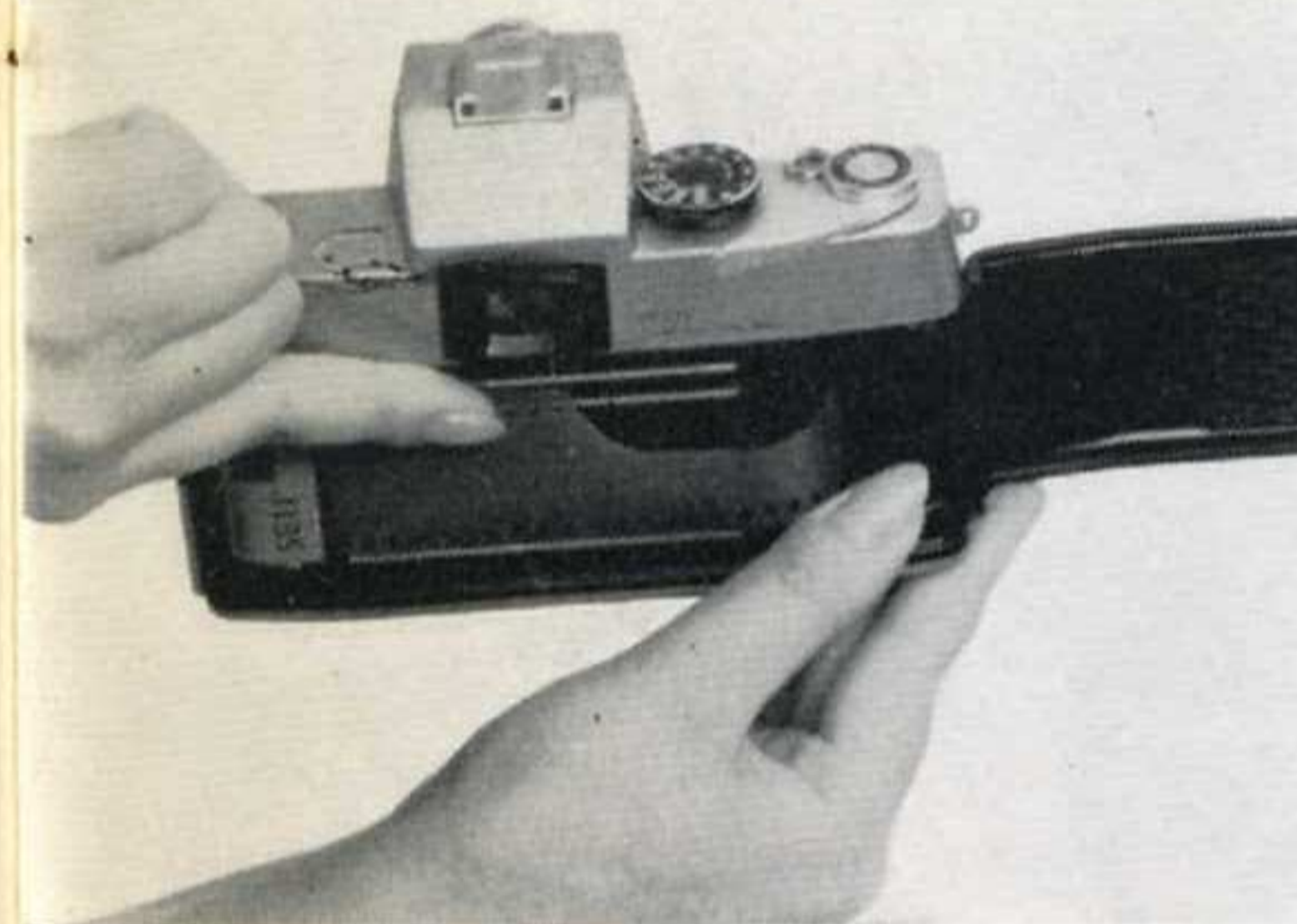
フィルムをつめるときには、日かげを選んでください。日かげのないときは、自分でかけをつくり、絶対に直射光がフィルムに当らぬように心がけてください。



1. 裏蓋開閉レバーを引く
スプリングの力で裏蓋が開く



2. 巻戻しクランクを引き出す



3. フィルムをスプールにはさむ
フィルム室にフィルム入れたならパーフォレーションとギヤをかませる



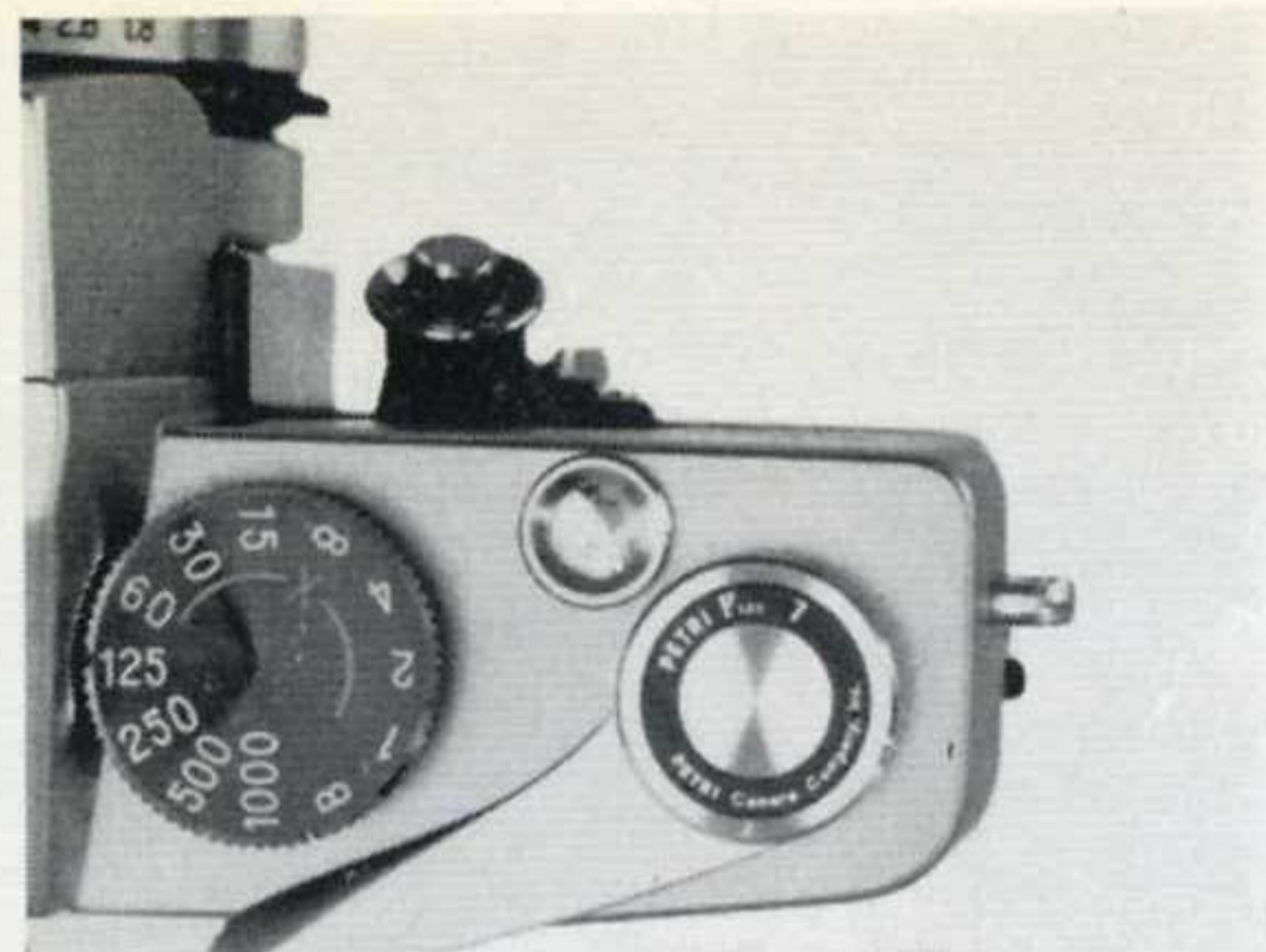
4. フィルムを少し巻取る



5. 裏蓋をパチンと閉めてOK

上下のギヤにパーフォレーションがかみ合っていれば、スムーズにフィルムが送られます。蓋をしめるとフィルム枚数計は、Sを指します。2回シャッターを切ると1を示します。

枚数計並にフィルムの取り出し方は11頁をご覧ください。



ボディ上部のシャッターダイヤルを右または左にまわして行います。写真は $\frac{1}{250}$ 秒のときを示しています。

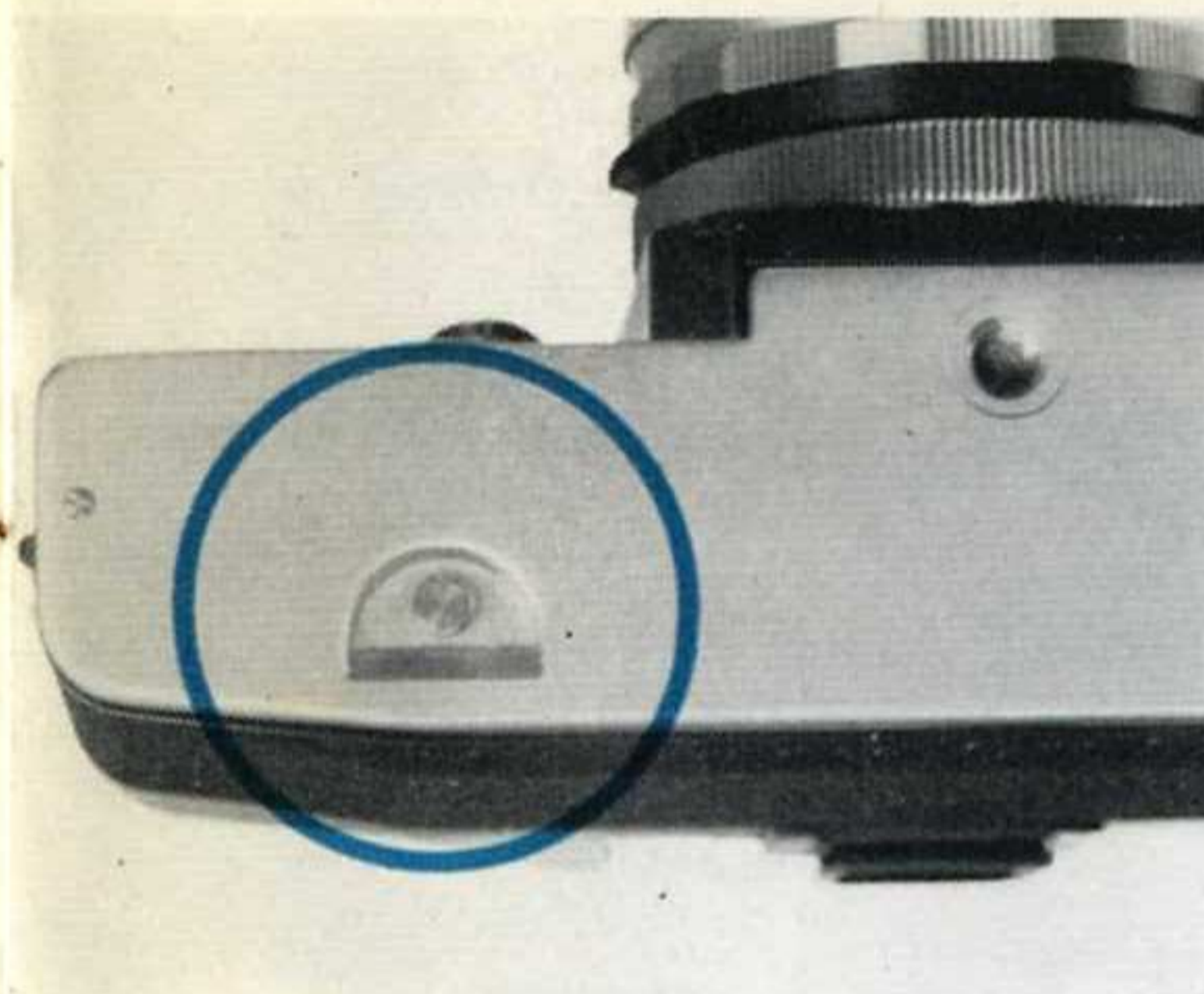
セット前
(白)

Bはバルブといい、押し続けている間中シャッターが開いています。Xと円弧はストロボが同調するシャッタースピードです。

ペトリフレックス7はオートマチックフィルムカウンターとシャッター

(赤) セットとメーター
セット後の連動を知らせる

マークが出るのでいつでも完全な撮影態勢に入れる、安心して使えるカメラです。

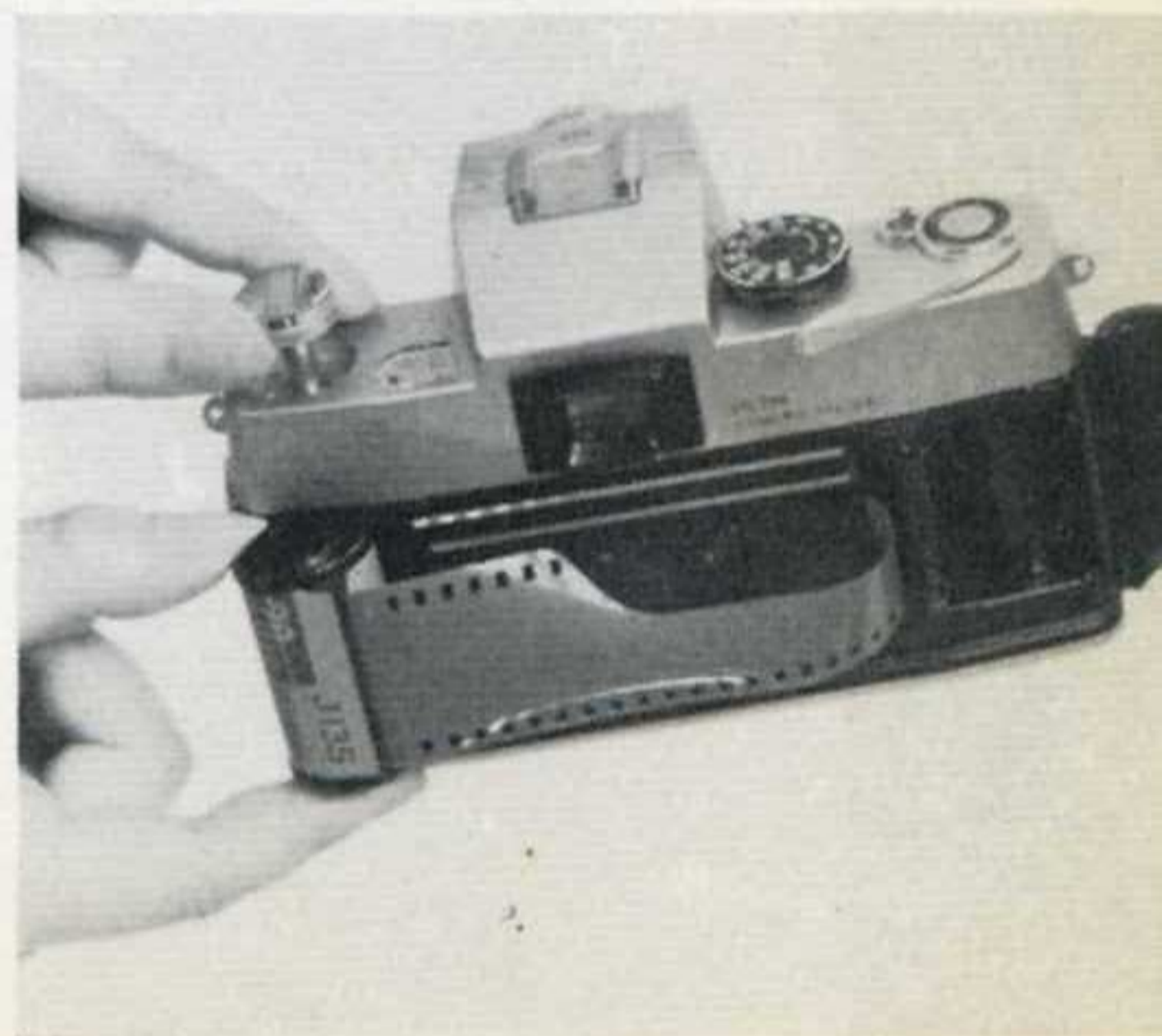


この巻戻しボタンを押し、巻戻しクランクでフィルムを巻き取ります。



フィルムは必ず巻戻してから取り出しましょう

撮影が終わったなら、カメラ底部の巻戻しボタンを押し、巻戻しクランクでフィルムをパトローネに巻取ります。この際完全にパトローネに巻き取ってしまわず、巻取りリールからフィルムがはずれたときに（手ごたえがなくなるのですぐわかる）止めることです。巻き込んでしまうと、露光するおそれがあるからです。



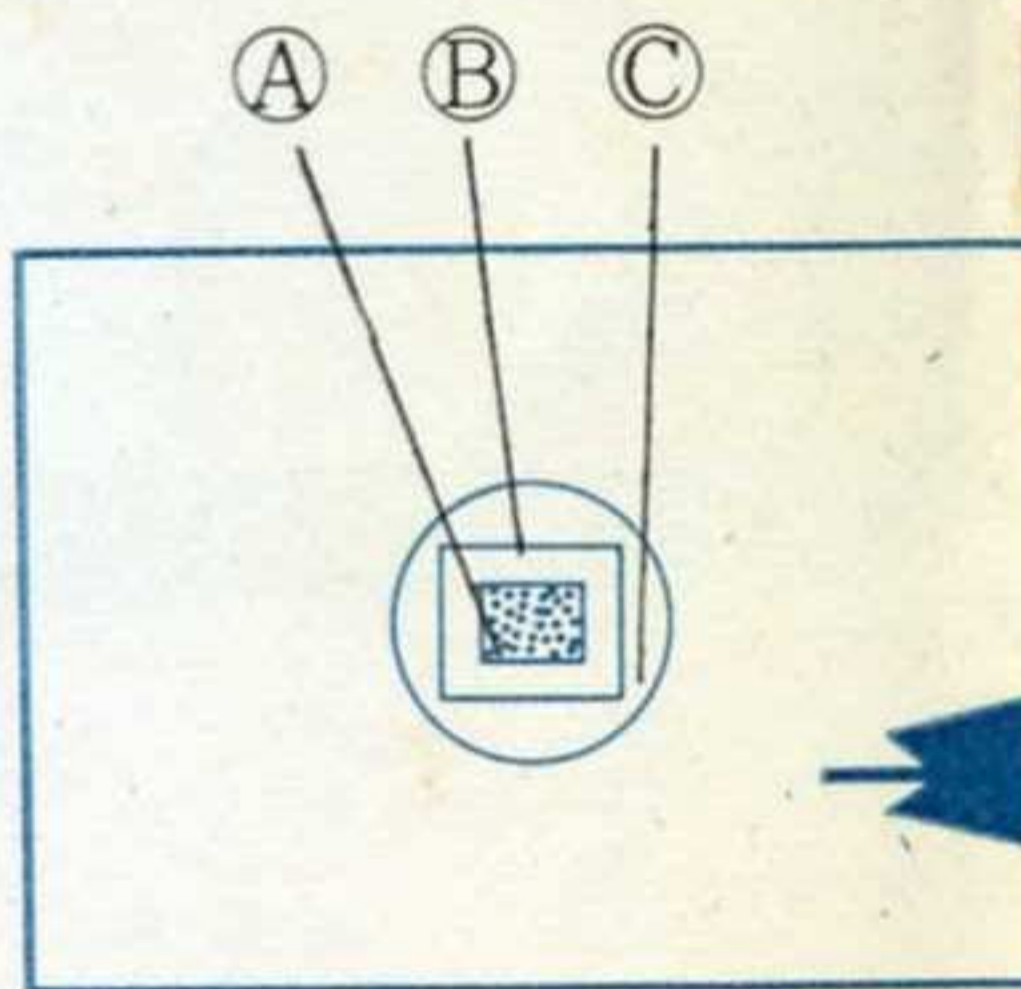


ファインダーを正しく見るためには、カメラを正しく構えなければなりません。右手はしっかりカメラのボディを持ち、人さし指が斜め30度のシャッターボタンにふれるようにします。左手は下からレ



ンズの鏡胴を支えるようにしながら、ヘリコイドリングを保持してピント調節を行います。カメラを安定させるために、鼻、ヒタイなど顔の一部にカメラの背部を密着されるとよいでしょう。

ピントの合せやすい
マイクロイメージ



絞り・シャッター速度
のいずれにも連動する
連動CdSメーター



ASA100(SSフィルム)に合せたところ

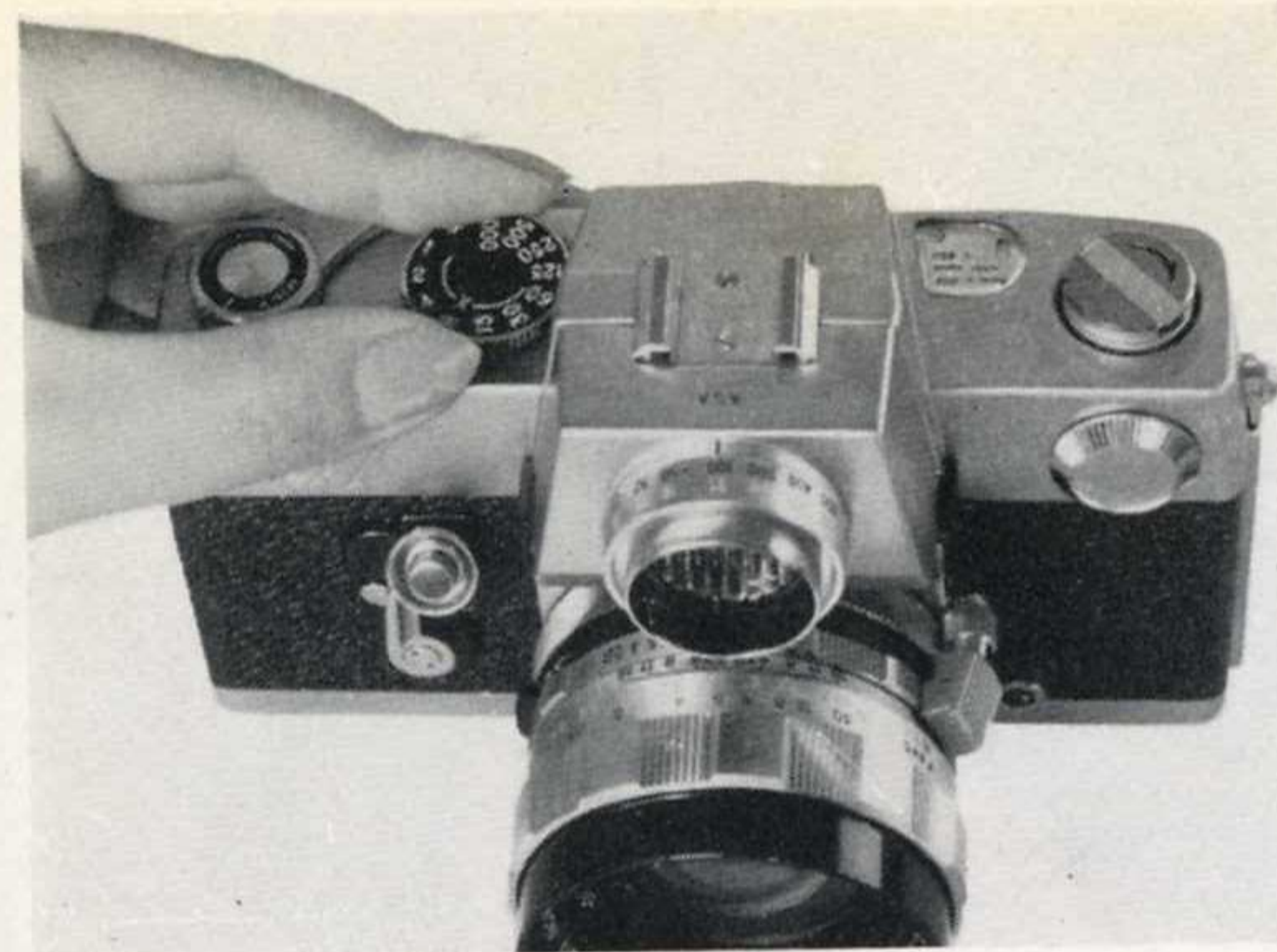
受光角の狭いCdSメーターは、常に正しい明るさを測定します。フィルムをつめたなら、メーター上部のフィルム感度目

盛を合せてください。絞り、シャッター速度のいずれかを決め、ファインダー内の定点に指針を合せると適正露出になります

ます。これがマイクロイメージで、微小なマイクロレンズ群を組合せてあります。マイクロイメージのすぐ外側にある四角い部分②は透明部で、マイクロイメージと比較しやすいようになっており、更にその外側の円形③はピントの合う巾を見る部分です。

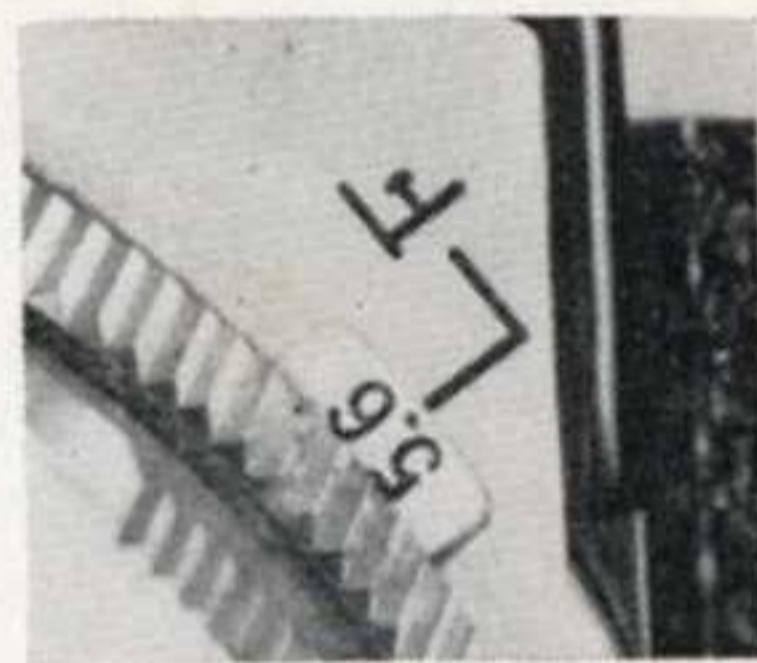
CdSメーターは水銀電池を入れると働きはじめます。これは電池を入れる状態を示したものです



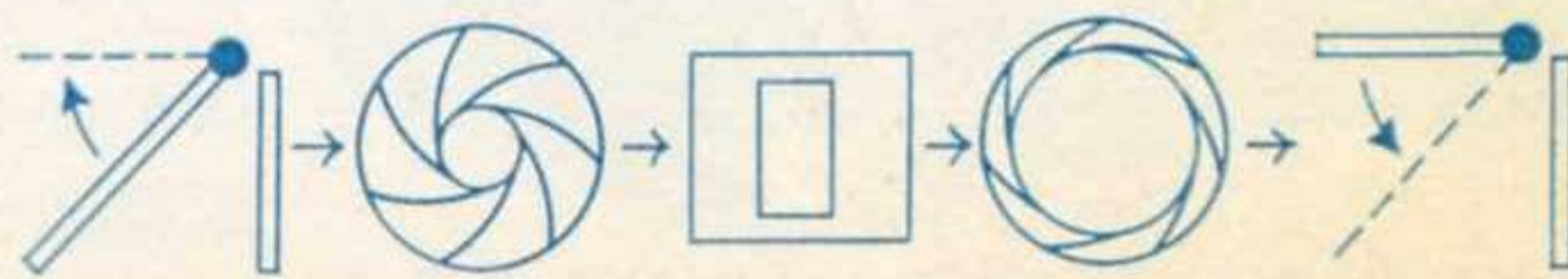


ペトリフレックス7は、CdSメーターが完全連動するので、絞りもしくはシャッタースピードを決めれば、自動的にシャッタースピードと絞りが決定します。撮影目的によって、絞りを優先するか、シャッター速度を優先するかをご自分でお決めになって傑作をお作りください。

ここに示したのは $1/125$ 秒で絞りf5.6のときの状態を示した写真です。 $1/125$ 秒にセットして絞りリングをまわし、定点に指針を合わせると絞り値はf5.6に、絞りをf5.6にしてシャッターダイヤルを回して指針を定点に合わせれば



$1/125$ 秒になるわけです。このようにペトリフレックス7はカメラが、自動的に露出を決めてくれるので、あなたは、シャッターチャンスだけをつかむことに全力を集中していただけるのです。下の図は自動絞りとクイックリターンミラーの作動の順序を示したものです。

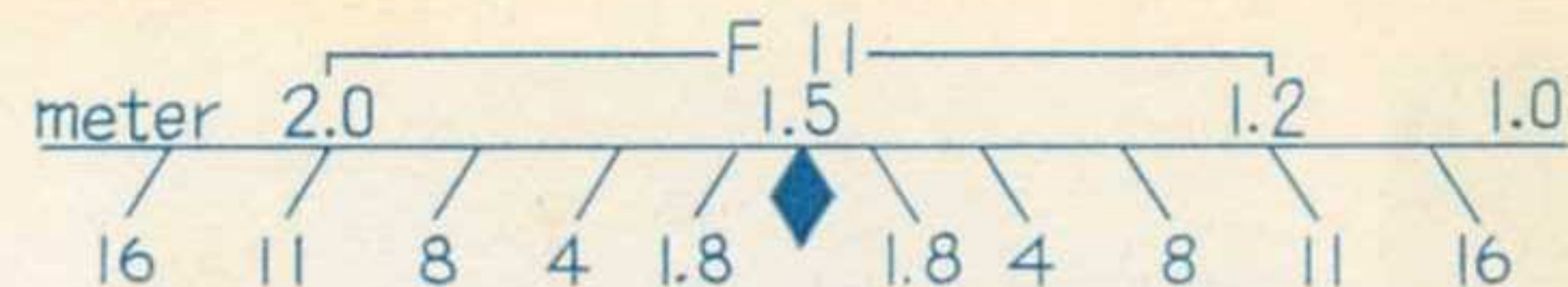


この図をご説明いたしますと……

- ①シャッターを切ると、ミラー（反射鏡）がはね上り
- ②絞りが所定のF値まで絞られ
- ③シャッター膜が開いて露光します
- ④ふたたび絞りが開放にもどり
- ⑤ミラーが元にもどります

この一連の働きが全部自動的に瞬間のうちに行われるのです。

- レンズ鏡胴のオートリング上のAUTOの文字が真上にあるときは、完全自動絞りが働いていることを示しています。常に絞りは開放の状態にありシャッターを切ると絞られるのです。
- オートリング上のM (Manual)の文字にレバーを動かすと、自動絞りが解除されて手動絞りとなります。手動絞りは実際に絞られたときの効果（被写界深度）をファインダーで確かめることができます。

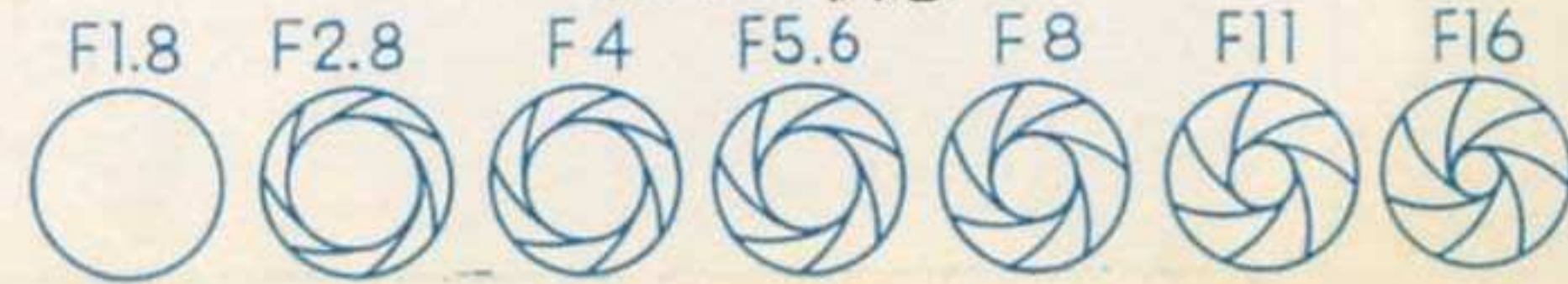


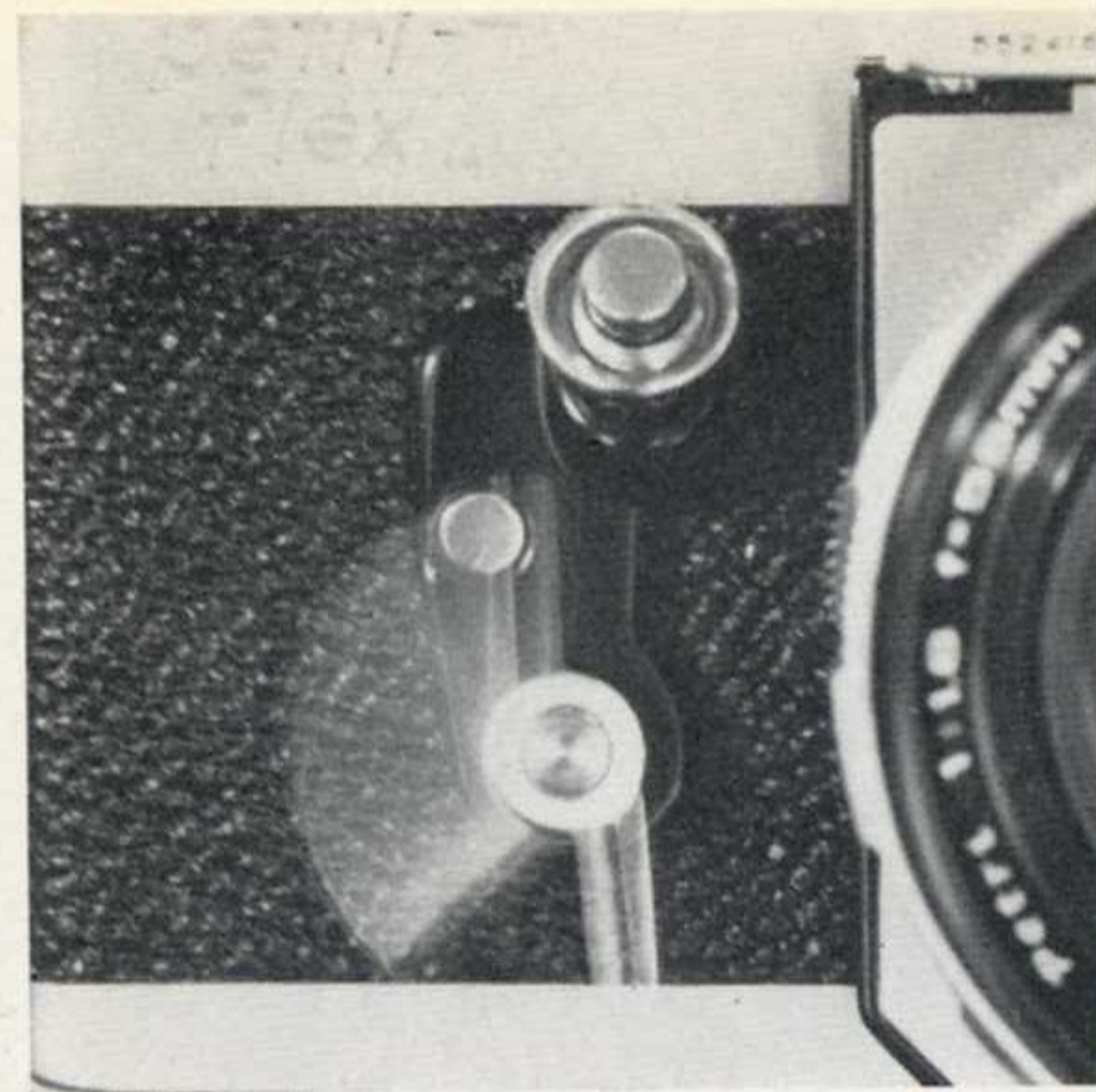
被写界深度目盛

ペトリフレックス7のレンズには、被写界深度目盛がついています。上の図は標準レンズの目盛を示したので、f11に絞ると約1.3メートルから1.8メートルまでピントが合うぞ、ということをお教えています。被写界深度とは、このピントの合う範囲のことです。

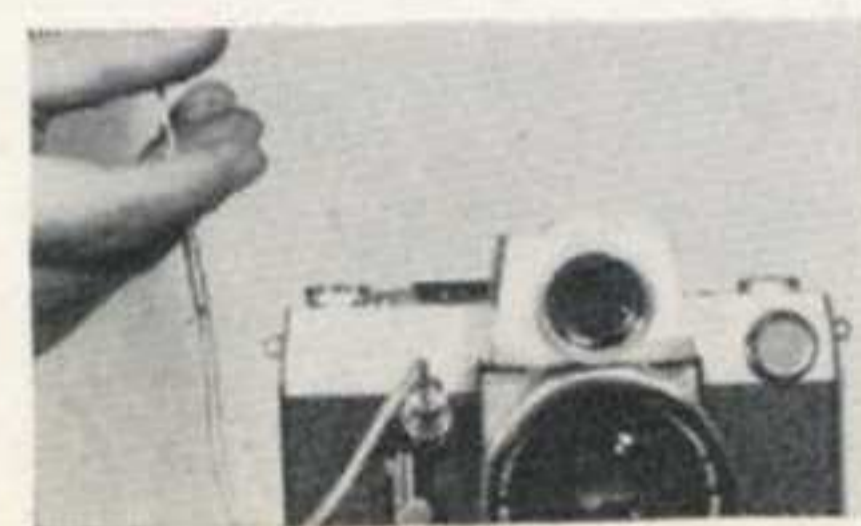
このように絞りは、たんに明るさを制限する働きと同時に、ピントの合う範囲を浅くしたり深くしたりする働きもかねています。従って記念写真を写すときなどは、f11とかf16を使って全体にピントが合うようにするとよいでしょう。

絞りの状態





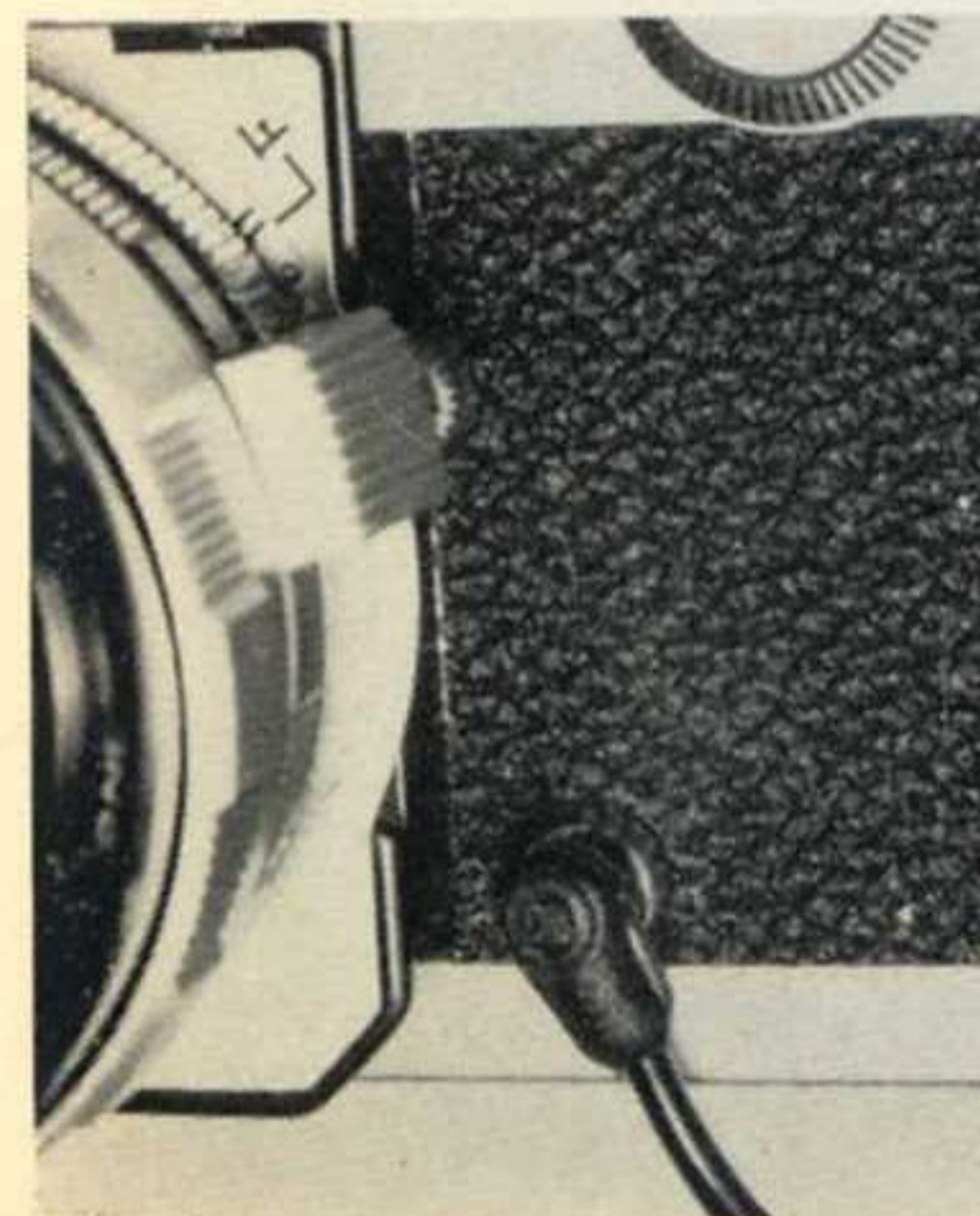
あなた自身も記念写真に加わりたい——こんなときこそセルフタイマーのありがたさが、身にしみて感じられます。ペトリフレックス7のセルフタイマーは、真下へ180度押し上げて、セルフタイマーボタンを押すと、約9秒後にシャッターが切れます。セルフタイマーのセットは、フィルムの巻き上げの前後いずれでも構いません。1～ $\frac{1}{1000}$ 秒の各シャッター速度が使えますが、B（バルブ）だけは使用出来ません。1ストローク9秒が基準ですが、9秒間も必要としない場合は途中位置も使用できます。90度は約4秒です。このほか直接シャッターボタンに手をふれたくない、スローシャッターの撮影などにも、セルフタイマーが活用できることをつけ加えておきましょう。



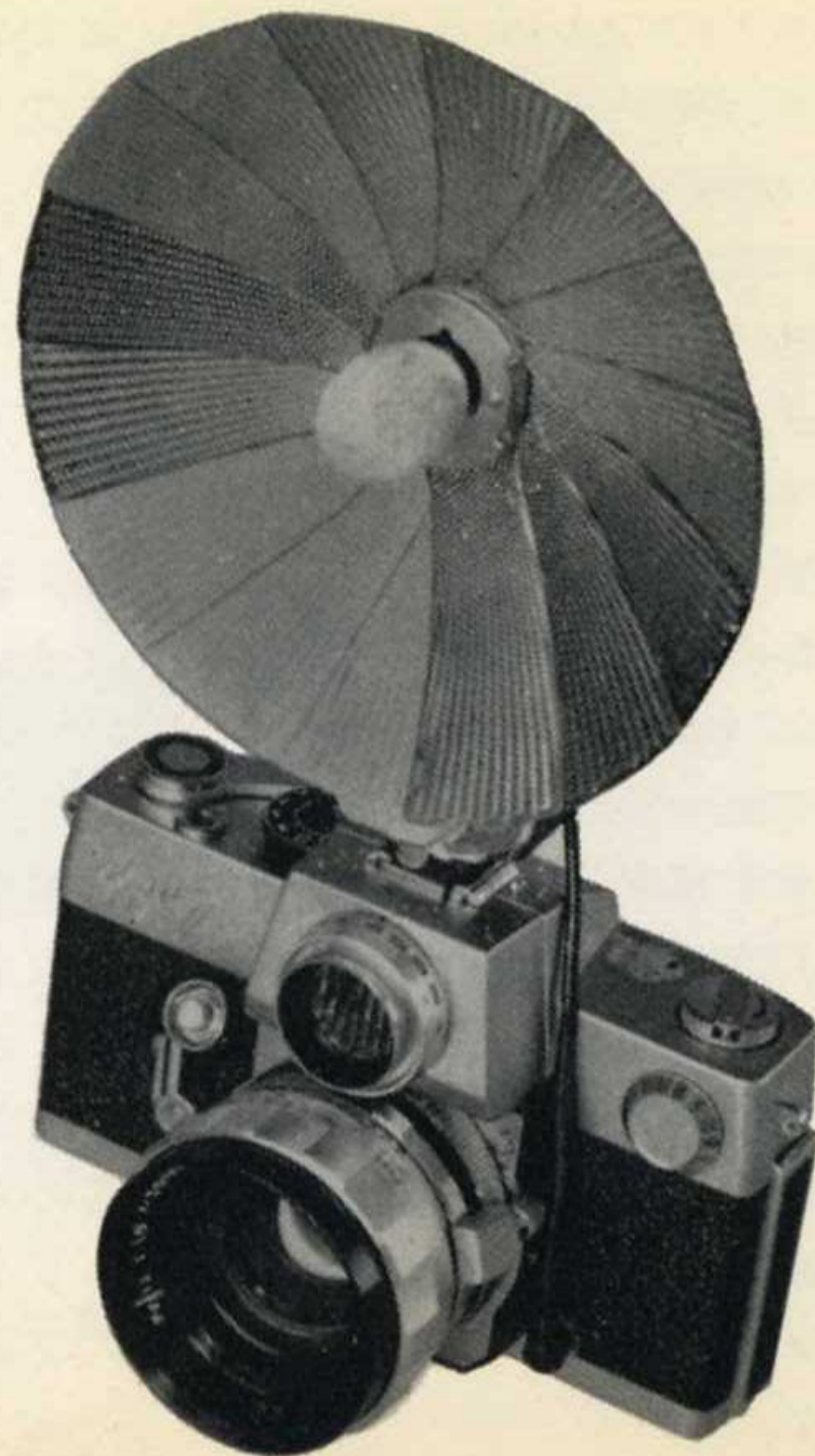
レリーズを使うとき

接写や複写など、すべてスローシャッターを用いるときには、レリーズの使用をおすすめします。シャッターボタンがすっぽりかぶさる形式のレリーズをお求めになってください。

夜間や室内で明るくきれいに写したいときには、シンクロフラッシュ撮影をおすすめします。シンクロ——シャッターが開いているときに閃光電球を発光させる——撮影に必要なものは、フラッシュガンに閃光電球です。このフラッシュガンのコードの先端を、シンクロターミナルに接続します。ストロボをお使いになる場合も同様です。閃光電球はフォーカルプレキシッター用のFP球をなるべくご使用下さい。 $\frac{1}{30}$ から $\frac{1}{1000}$ 秒の各速度に同調します。なおF級の閃光電球は $\frac{1}{30}$ 秒以下、M級は $\frac{1}{15}$ 秒以下なら同調します。ストロボにはXの範囲—— $\frac{1}{60}$ 秒から1秒——が使えます。絞りの決定は、光源と被写体の距離によって行いますが、閃光電球の外箱についている露出表で、たやすく数値が得られます。ストロボはガイドナンバーによる割算で絞りを決めましょう。



なおF級の閃光電球は $\frac{1}{30}$ 秒以下、M級は $\frac{1}{15}$ 秒以下なら同調します。ストロボにはXの範囲—— $\frac{1}{60}$ 秒から1秒——が使えます。絞りの決定は、光源と被写体の距離によって行いますが、閃光電球の外箱についている露出表で、たやすく数値が得られます。ストロボはガイドナンバーによる割算で絞りを決めましょう。

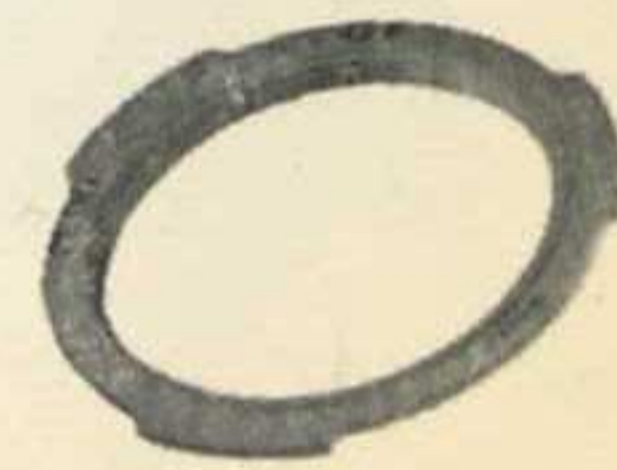


ペトリフレックス7はレンズ交換ができるので、その利用範囲はきわめて広く、海外の第一線作家にも多くの愛用者がいます。レンズの交換はバヨネット式で、どなたにも簡単に迅速に行えます。レンズをはずすにはバヨネットリングを左にまわしてください。反対にレンズを取りつけるには、レンズの赤印とボディ座金の赤印を合せ（同時に絞表示レバーもかみ合せておく）て、バヨネットリングを右にまわしてください。これでOKです。交換レンズはペトリの交換レンズのご使用をおすすめします。19・20頁にご案内してあるように、広角から超望遠に至る各種のレンズが完備しています。広角35ミリと望遠135ミリは自動絞りになっており、標準同様の着脱ができます。また、ネジ込式の交換レンズをお使いになる方のために、ペトリではペトリマウント用アダプターリングを準備しています。



アダプターリング

このアダプターリングをボディにはめこみ、バヨネットリングで固定し、レンズをねじ込んでください。



ペトリフレックス7にはペトリ交換レンズをお使いください！



ペトリ交換レンズ群は、新種ガラスを採用し、カラープロパコーティングされた高解像力のレンズばかりです。

ペトリフレックス7がもっとも活躍するのは、レンズを交換して、機動力を発揮したときです。広角35ミリでスナップを、105ミリ、135ミリではポートレート、200ミリや300、400、500ミリの超望遠レンズでは、あの迫力ある望遠効果をお楽しみください。シャープな切れ味と、使いよさが、あなたをとりこにってしまうことでしょう。カメラのつぎには、まず予算を組んで、用途の広い135ミリ望遠レンズをお求めになってはいかがでしょうかでしょう。



ペトリF 3.5 35mm
〈広角〉 自動絞り

¥15,000 ケース付



ペトリF 3.5 105mm
〈望遠〉 プリセット絞り

¥12,000 フードケース付



ペトリF 3.5 135mm
〈望遠〉 自動絞り

¥19,000 フード・ケース付



ペトリF 4 200mm
〈望遠〉 プリセット絞り

¥18,000 フード・ケース付



ペトリF 5.5 300mm
〈望遠〉 プリセット絞り

¥24,800 フード・ケース付



ペトリF 6.3 400mm
〈望遠〉 プリセット絞り

¥28,400 フード・ケース付



ペトリF 8 500mm
〈超望遠〉 プリセット絞り

¥45,000 ケース付

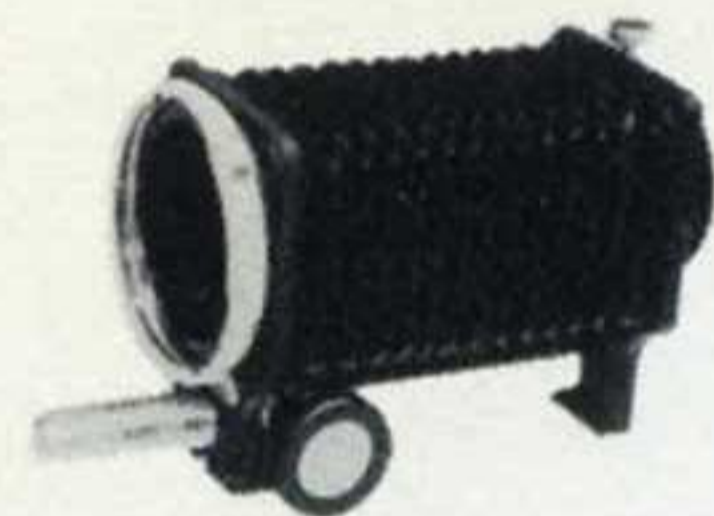
カメラを三脚に固定させて、レンズをつかえて写してみたのが、上に並べた写真です。専門用語では「画角の変化」を示した作例といっております。この写真から、広角レンズは広い範囲を、焦点距離が長いレンズほど狭い範囲を写すことがわかります。

その範囲は、およそつぎのとおりです。35ミリ=63度、105ミリ=23度、135ミリ=18度、180ミリ=13度、200ミリ=12度、300ミリ=8度、400ミリ=6度、500ミリ=5度。この範囲を包括角度と呼びます。ところで、交換レンズはこの包括角

度のちがいだけではなく、さらに特長ある性質をもっています。よくポートレートなどで、人物にピントが合って、バックがボケている写真を見かけます。これは望遠レンズの被写界深度の狭さを利用したものです。逆に広角レンズでは、すべてにピント

が合っている写真をごらんになったことがあるでしょう。被写界深度の深さを使った例です。被写界深度とはピントの合う巾のことで、焦点距離の短いレンズほどその巾が広いのです。望遠レンズを使えば、人物だけをはっきりとバックをボカせるのです。

ペトリベロスコープ



ベロスコープは蛇腹で伸縮するので、実物よりも大きく写したいときに用います。標準ペトリ F1.8・55ミリレンズをつけると、2.2倍から6.8倍の撮影が可能です。研究資料の撮影には欠くことのできないアクセサリーで、肉眼とは異った自然の様子を写真にすることができます。

ペトリレフコンバーター



ペトリフレックス7はペンタプリズムが固定されていますので、三脚にとりつけたときなどに、このレフコンバーターを使用すると、ファインダーがとて見やすくなります。真下にあるものを、上からのぞきこまなくとも、楽に見られるからです。

ペトリ接写リング



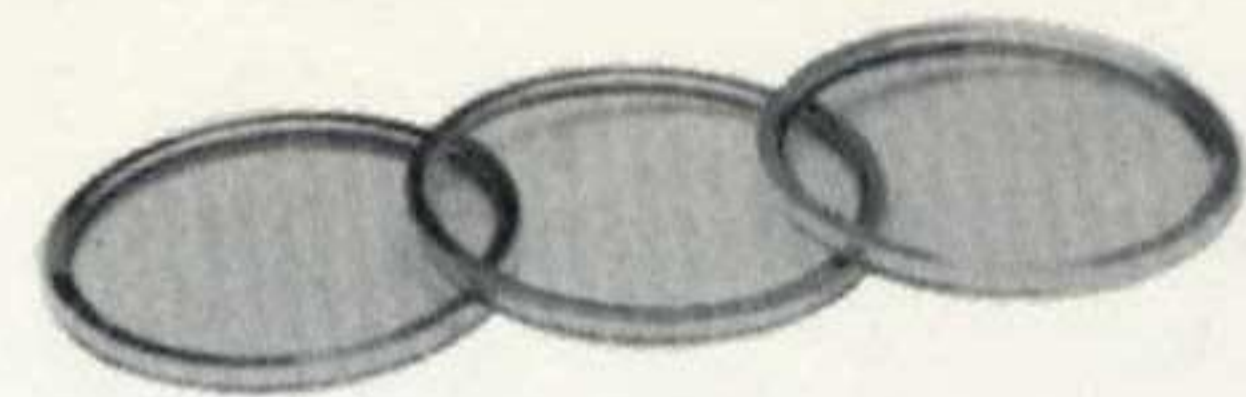
レンズとボデーの間に接写リングをはめこみますと、小物体の複写や文献などの複写ができます。接写リングには1号、2号、3号とそれぞれ厚さのちがう3種類があり、いろいろに組み合わせれば、あらゆるサイズの接写ができます。
1号、2号、3号セット
¥ 1,260

ペトリフード



軽合金使用の丸型、止ネジ式レンズフードで着脱が確実です。内面反射防止が完全ですから、レンズの写角以外からの有害な乱反射を防ぎ、美しい写真が写せます。丸型ですから取付けの角度に気を配る必要もありません。丈夫な革ケースに入っています。
¥ 1,000

ペトリフィルター



Y1 (淡黄)、Y2 (黄)、YA3 (橙)、R1 (赤)、PO1 (緑) 各¥1,200
H-U V (紫外線カット用) ¥1,400
カラー用
W4 (温調)、C4 (冷調)
C8 (閃光電球用)
C12 (写真電球用) 各¥1,400

ペトリスポットスライド



カラー時代にふさわしい折畳み式の超小型スライド映写機です。ペトリフレックス7で撮影した色のシャープなカラーズライドを、ペトリスポットスライドで大きく映写するのはまさにカラーの醍醐味といえるでしょう。一家に一台ぜひおそろえください。
¥5,900